

平成二十五年
いのち
七月

生命の言葉

人の一寸我が一尺

日本のことわざ

裏面もご覧下さい。

七月
生命の言葉

「人の一寸は見えるが我が一尺は見えぬ」とも言う。一寸・一尺は欠点の大小について言っている。人の欠点なら、ちよつとしたものでも見えるが、自分の欠点は、大きなものでも自分には見えないものだ、という意。

解説・金子武雄『日本のことわざ』

金子武雄（かねこたけお）

一九〇六一―一九八五年。東京大学文学部国文科卒。上代文学専攻。東京大学教授から同名誉教授。著書に『続日本紀宣命講』『延喜式祝詞講』。ことわざの研究でも知られ、「ことわざは民衆が実生活の体験のなかから人間や人生に対する批評として生み出されたもので、(中略)伝えられた文化遺産といつてよい」と述べている。

大暑の候ご参拝の皆さまの願い事はきっと神さまに届きます

東京都神社庁
<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮